

白糠×本別 災害応急合同訓練

8月21日、白糠町と包括連携協定を結ぶ本別町との「災害応急合同訓練」が行われ、両町の防災・福祉担当職員24人が参加しました。

同訓練は、千島海溝沿い巨大地震で白糠町に津波が発生した想定で、介助が必要な方を本別町の福祉避難所へ移送する内容です。

白糠町職員は、特別養護老人ホーム清和園や「岬の森東山公園津波指定避難場所」に一時的に避難している要支援者のもとを訪れ、状態の聞き取りや移送人数など確認。無線で災害対策本部と情報共有をしました。

その後、要支援者2人を本別町との合流地点である縫別自然の家まで移送し、車いすなどを用意していた本別町の職員に引き継ぎました。本別町からは食料や水などの非常用物資を受け取りました。

前回の訓練では、要支援者を移送する際に必要な情報の共有ができていなかったため、今回は両町の保健師が情報共有の徹底を図りました。



①要支援者役を移送用車両に乗せる本別町の職員②要支援者情報の共有をする両町の職員③訓練後は参加者による会議が行われ、改善点などを話し合いました

災害に備え知識深める 庶路学園 7年生防災学習



ポンプ場から庶路川に放水される水の流れを確認する生徒



9月4日、庶路学園で「防災学習」が行われ、7年生19人が災害に備えて知識を深めました。

この日は、役場地域防災課職員3人を招き、「西庶路裏山津波指定避難場所」でテント設営やLPガス発電機の使用方法を学びました。また、備蓄用コンテナにある災害用備蓄品を確認しました。続いて「植村ポンプ場」に移動し、ポンプ稼動や放水される水の流れを確認しました。

生徒たちは「今回学んだことを大人の人たちにも伝えたい」「災害があったときは今日の経験を生かしていきたい」と話していました。

庶路学園では11月に1泊2日の「防災宿泊研修」を予定しています。